

【多治見市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和3年に、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が示された。これを踏まえ、多治見市では、「多治見市GIGAスクール活用推進計画」を作成し、目指す子どもの姿を、「ICT機器を活用し、情報活用能力を高め、学びを深めることのできる子ども」として、自ら判断してデジタル社会を安全に行動できる児童生徒の育成に取り組んでいる。

2. GIGA第1期の総括

平成30年に多治見市教育委員会は、「第2次多治見市教育基本計画 一たじみ教育生き生きプラン」（平成30年3月）を策定した。その中の基本施策「体力・学力を高める教育・保育の推進」に「ICTを活用した教育の推進・プログラミング教育の導入支援」を位置づけ、教育の情報化に取り組んだ。令和2年4月に「GIGAスクール活用推進プロジェクト会議」を立ち上げ、令和2年度末には、校内LAN、1人1台端末の整備が完了した。令和3年度からは「ICT機器を活用し、情報活用能力を高め、学びを深めることのできる子ども」を目指し、本格的に1人1台端末を活用した授業がスタートした。教職員のICT機器の積極的な活用、授業改善により教育の情報化は急加速し、児童生徒の学びの保障のためのオンライン学習にも取り組んだ。そして、令和4年度には、日本教育工学協会（JAET）の認定する学校情報化優良校に市内すべての公立小・中学校が認定され、令和6年度に多治見市は、学校情報化先進地域に認定された。令和4年度には、元学校管理職からなるICT教育推進員を3名雇用し、授業や校務におけるICTの利活用におけるサポート体制を整えた。令和5年度には、さらに1名増員し、市内21校を4名で分担し、学校や職務部会において、元教員というメリットを生かし、要望に応じた研修を行ったり全国の先進的な取組を紹介したりするなど、精力的に活動したことで、教職員の情報活用能力は上がった。令和6年度は、情報モラル指導計画や、デジタルシティズンシップ教育ハンドブックを作成するなど、自ら判断してデジタル社会を安全に行動できる児童生徒の育成を目指した。今後は、教職員のさらなる授業改善や、業務での活用を推進するとともに、多治見市が目指す子ども像に近づくように計画していく。クラウド環境を維持していくためにはネットワーク環境が必須である。しかし、ネットワークがつながりにくいことがあるなど、ネットワーク環境の整備が課題である。

3. 1人1台端末の利活用方策

今回の端末の整備・更新により、GIGA第1期の一人一台端末とクラウド環境を維持し、さらにネットワーク環境を整えていく。GIGA第1期の取組により、小・中学校の授業で「ほぼ毎日活用する」割合は100％である。また、授業以外の活動でも端末の利用が増えている。

ここ数年で、授業の風景ががらりと変わった。令和2年の導入時の、まずは使ってみようから、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための端末の活用が増えてきた。子どもたちは、端末に送られた様々なヒントから自分ができそうなものを選んで問題を解く。解いた問題や、自分の考えをクラウドで共有し、自由に他者の考え方を参照することができる。考えを確かなものにしていくために、他者と協働的に考えたり、仲間に自分の考えを端末を活用して説明したりする。課題が解決したら、自分でさらに学びたいことに取り組む。AIドリルであったり、教科書の問題を解いたりして、自己調整しながら学んでいる。このような学びは、タブレット端末をなくしては実現できない。

また、小・中学校でデジタル指導書を導入し、より深い学びができるように効果的に活用している。

授業以外の利用としては、「ロイロノート・スクール」を利用しての、欠席遅刻連絡がある。一人一台端末を活用して欠席遅刻を集約している。また、「きずなネットアプリ」を利用して、教育委員会からの連絡や配付プリントなど、一括で多治見市内の全児童・生徒に送信している。「マイクロソフトフォームズ」や、「ロイロノート・スクール」を活用したアンケートの実施と集計も行っている。

教育相談の場面でも活用している。「心の天気」アプリを活用して、日々の児童生徒の心の動きを天気に例えて把握している。これにより、一人一人の状態を把握し、サインを見逃さないようにしている。また、不登校児童生徒に対して、要望に応じてオンライン授業を行うなど、誰一人取り残さない教育を目指して多様な学びの場を提供している。

生徒会活動では、生徒がロイロノート・スクールで全校に向けてのプレゼンを作成したり、写真やビデオを撮り、説得力のある活動にしたりするなど、子どもたちは、タブレット端末の可能性を無限に引き出し、自分で考え、効果的に活用している。

今後も、このような授業やその他の教育活動での活用を維持しながら、さらに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、活用方法を工夫していく。また、多治見市の体制も維持し、ICT教育推進員を中心に教職員をサポートしていく。